(No.07H0306)

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事例概要について】

１．事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリ
２．体験した事例の名称	軽ワゴン車の追突事故
３．体験した事例の中心的要素	救出方法を変更したため、焦りが生じ強引な資機材の利用により失敗した。
４．体験した事例の原因・理由	通報内容と今までの経験から直ぐ救出できると固定観念から生じた現場での焦りとやじうまの目線

【体験した事例の直接的原因について】

１．体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。

【体験した事例について】

１．発生日時	**平成** 18 **年** 7 **月** 31 **日**　　**午後** 5 **時頃**
２．発生した当時の天候	晴
３．発生した活動現場	屋外：市街地（道路）
４．体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
５．事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう。
６．どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	
７．事例体験時の活動	救助、現場活動中期、　[　]
８．（７の活動中）どのような作業中に発生したか	破壊活動、救出準備作業、
９．同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。

１０．ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者Ａ）

○当事者Ａ	年齢[39]歳、 勤続年数[20]年、 現場経験年数[18] 年、 階級[司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [ ]
○当事者Ｂ	年齢[32]歳、 勤続年数[13]年、 現場経験年数[10]年、 階級[司令補]、 同様の活動 [頻繁]、 任務 [ ]
○当事者Ｃ	年齢[28]歳、 勤続年数[9]年、 現場経験年数[3]年、 階級[士長]、 同様の活動 [数年に１度程度]、 任務 [ ]
その他 (当事者が４人以上の場合)	

１１．事例発生の経過。 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過１	Ａ	現着前（車内にて活動方針を単純化）	雰囲気で全員楽な活動と考える
経過２	Ａ・Ｂ・Ｃ	救出にあたり外部からハンドル固定後チェーンで引き出そうとするが破損状況が悪く救出できるまでのスペースが確保できない	
経過３	Ａ	活動方針の変更を直ぐ判断し車両内から拡張を試みるが　やじ馬及び負傷者が騒ぎ出し　隊員が混乱し始める	要救助者はかなりの飲酒状況
経過４	Ａ・Ｂ・Ｃ	車内からラムかスプレッタを利用できるスペースを探すが破損状況が悪く見当たらない	運転席が挟まれたように狭くドアの開放も危険でありスペースがみあたらない
経過５	Ａ	運転席と助手席の中央に角材を土台として拡張する方針に決定	
経過６	Ｂ	ラム先端をハンドルに直接設置し伸張するハンドルにはチェーンで外側にテンションをかけたままである	Ｂが安全ですと判断
経過７	Ｃ	ラムを伸張する隙間を角材で重ねていく	隙間が若干みえたが進める
経過８	Ｂ	ハンドルがあがりあと数センチの時ハンドルからラムが外れ約５～１０センチ下がる	角材で止まった。ハンドル固定していたチェーンは横にずれて効かない
経過９			
経過 10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合　　：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険事象の対応方法を知っていた。その他：失敗した場合の訓練をたまたま数日前にやっていた

○心理・体調について

ａ．あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	はい

ｂ．注意力が欠如していた

・１つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

ｃ．経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	はい

ｄ．心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

ｅ．資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

ｆ．障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

ｇ．行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

ｈ．足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

ｉ．適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

ｋ．関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

ｌ．その他の理由があった。

○ヒヤリハット事例：軽ワゴン車の追突事故　(07H0306)

（同様の体験は、初めて体験した。）

・発生日時　：平成１８年７月　午後５時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		消防司令補 ・年齢 39 歳 ・勤続 20 年 ・現場 18 年 ・同様の活動：頻繁	消防司令補 ・年齢 32 歳 ・勤続 13 年 ・現場 10 年 ・同様の活動：頻繁	消防士長 ・年齢 28 歳 ・勤続 9 年 ・現場 3 年 ・同様の活動：数年に1度程度	
	現着前（車内にて活動方針を単純化）				通報内容と今までの経験から直ぐ救出できると考える
	救出にあたり外部からハンドル固定後チェーンで引き出そうとするが破損状況が悪く救出できるまでのスペースが確保できない				
	要救助者はかなりの飲酒状況 活動方針の変更を直ぐ判断し車両内から拡張を試みるがやじ馬及び負傷者が騒ぎ出し隊員が混乱し始める				
	運転席が挟まれたように狭くドアの開放も危険でありスペースがみあたらない 車内からラムかスプレッタを利用できるスペースを探すが破損状況が悪く見当たらない				
	運転席と助手席の中央に角材を土台として拡張する方針に決				
	ラム先端をハンドルに直接設置し伸張するハンドルにはチェーンで外側にテンションをかけたままである				Bが安全ですと判断
	ラムを伸張する隙間を角材で重ねていく				隙間が若干みえたが進める
	ハンドルがあがりあと数センチの時ハンドルからラムが外れ約5～10センチ下がる				角材で止まった。ハンドル固定していたチェーンは横にずれて効かない

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか

○直接的な原因：行動の実行に問題があった。
- 危険事象の対応方法を知っていた。
- 失敗した場合の訓練をたまたま数日前にやっていた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

（心理・体調について）
- 早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。
- 被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。
- 周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。
- 活動に対する経験が不足していた。

（活動環境について）
- 狭隘な場所であった。
- 野次馬が多かった。

（指揮・管理について）
- 指示内容に誤り・偏りがあった。
- 隊員の連携が不十分だった。